

会 議 記 録

名 称	中央区基本構想審議会躍動部会（第4回）	
開催年月日	平成28年7月25日（月）18:30～20:00	
場 所	中央区役所本庁舎8階 大会議室	
出 席 者	委 員	金井利之（部会長）、中西史（副部会長）、リシヤール コラス、石田英朗、杉原慶一、古屋勝彦、三田芳裕、松岡肇、森山照明、山本泰人、岩田享也、立川智誉、島田勝敏
	幹 事	長嶋育夫（区民部長）、高橋和義（教育委員会事務局次長） 濱田徹（企画財政課長）、園田典子（広報課長）
配布資料	中央区基本構想審議会躍動部会（第4回）次第 中央区基本構想審議会「躍動部会」委員・幹事名簿 中央区基本構想審議会躍動部会（第4回）座席表 資料1 躍動部会報告書（修正案） 資料2 躍動部会報告書（案） 資料3 躍動部会報告概要（案） 資料4 基本構想の答申に向けた今後の流れ	
議事の概要	1 開会 2 議題 (1) 躍動部会報告書（修正案）について (2) 躍動部会報告書（案）について (3) 躍動部会報告概要（案）について (4) 基本構想の答申に向けた今後の流れについて (5) その他 3 閉会	

1 開会

配布資料の確認。

2 議題

(1) 躍動部会報告書（修正案）について

事務局から、資料1「躍動部会報告書（修正案）」を説明。

金井部会長 質問等をいただきたい。

（質問等なし）

(2) 躍動部会報告書（案）について

(3) 躍動部会報告概要（案）について

(4) 「基本構想の答申に向けた今後の流れについて」

事務局から、資料2「躍動部会報告書（案）」、資料3「躍動部会報告概要（案）」及び資料4「基本構想の答申に向けた今後の流れ」を説明。

金井部会長 8月24日（水）開催の第3回審議会では、資料2「躍動部会報告書（案）」を審議会に提出し、部会長である私から資料3「躍動部会報告概要（案）」に基づき、概略を報告させていただく。したがって本日、躍動部会報告書（案）の内容を固めることとなるため、全体を通して意見をいただきたい。

古屋委員 中央区の将来を3つにまとめると、1つは「人間にやさしいまち」である。これは誰に対してもやさしいまちであり、また人に対して環境がやさしいということが基本にある。2つ目は「文化の香りが高いまち」ということで、伝統や教育、食などについて、その水準が高いところで保たれていなければならない。上野にみる文化全体の融合性という点での実情も踏まえつつ、今後そういったことはできると思う。3つ目は、これら2つを支えるための「経済活動」である。特区におけるIT企業などの新しいものだけでなく、例えば今まで中央区で頑張ってきた、女性が元気な商店街などが考えられる。

森山委員 台東区において、東京芸術大学の学生が地場のことを考え、老舗のお店などを紹介した冊子を作り、それがまちおこしに役立っているという話を聞いた。地元の若い人たちに、魅力を掘り起こしてもらうのも考えられる。

事務局 今後、基本構想審議会においてそれぞれの部会が意見を述べた上で、起草委員会で全体の構成、考え方をまとめていく。躍動部会としても、躍動という視点に収まらない、基本構想全体に関する意見を発言することが大切であると思う。古屋委員からいただいた意見については、中央区の将来像における視点として、基本構想審議会、起草委員会において躍動部会から伝えたい。

山本委員 「躍動」とは何かと考えた時、人と人が交流するところは常に活性化していて躍動性を感じさせる。その視点での大きな核づくりがあってもよいと思う。銀座や日本橋、築地場外市場の跡地などにおいて、人と人との交流が極めて盛んに行われる場づくりが重点的に行われることで、外国人観光客や、外国から来る大企業の方と地元の住民が常に融合し、活気にあふれた、躍動していく中央区につながるのではないかと。加えて、文化発信として、日本橋周辺の文化財など歴史的、文化的伝統の流れも組み込むことができれば、さらなる躍動性を生み出すのではないかと思う。

三田委員 躍動するためにはエネルギーが要るが、エネルギーを起こすためには、古くからの智慧と新しい考え方のような全く違うものが対立したり、融合したりする必要がある。例えば、老舗における先達からの商いの教えでいえば、それを店がいかにかに表現するのかということと、若者や外国の方が客としてそれをどのように受け止める

かということとのぶつかり合いから、新しい商いのエネルギーが生まれてくるような気がする。また、昔ながらのフェイストゥフェイスの人のつながりとともにインターネットを使った人のつながりが生む新しい文化の可能性なども今後は追求していく必要があると思う。

立川委員 千代田区では観光協会が、皇居や千鳥ヶ淵など歴史を巡るツアーを開いているようである。外国の方には日本に対する認識のずれがまだあるようなので、中央区でも、区役所発の、歴史を巡るツアーがあればよいのではないか。

金井部会長
事務局 中央区にはそのようなツアーはあるか。
中央区観光協会でもちあるきツアーを全13コース用意している。また、旅行会社からの依頼でツアーを商品化したり、団体であれば希望に応じてツアーをつくるということも観光協会に対応している。

コラス委員 文化と観光について話をしたい。
文化は国や市、区だけではなく、市民や民間から生まれることもある。フランスでは町中でアマチュアの方が行う音楽祭があるが、市民が自分で決めて自分でやるものが文化である。お金はあまりかからないが、日本では規制が厳しくてできないことが多い。規制は市民が自らで決めるものだと思う。また、海外風のことをするのはなく、日本風のもの、例えば屋台祭りとして全国の屋台を銀座に集めてやるのがよいのではないか。GLIC（Ginza International Luxury Committee）では、過去にジャズフェスティバルを行ったが、このように民間企業と連携して、区民のための文化を深めることは一つのやり方ではないかと思う。そのために規制を見直し、民間や市民のアイデアを生かすことができればよいと思う。

観光については、日本は誤った方向に向かっていると思う。外国人観光客数が500万人であった時代に国から意見を求められ、「自分の国を醜くすることはやめなさい」「インフラをつくりなさい」ということを伝えたことがある。しかし現在、インフラの整備が進まないまま2,000万人の観光客が来ている。今後さらに4,000万人、6,000万人を目指そうとしているが、これが間違っている。

去年まではインバウンドによって好調だった百貨店ブランドの売り上げも止まっている。国が観光客数の増加を主眼としているために売り上げにはつながっていないのだと思う。

銀座六丁目の再開発事業は、高級ショッピングセンターというコンセプトによって進められているが、お金を使わない観光客が増えている状況に悩んでいる。現状の課題を解決するためには、質の高い文化的イベントなど純粋な日本文化を味わえるものをつくっていかねばならない。

金井部会長 日本経済全体が縮小局面にある中で、単に観光客を増やすために安く売り込んでいる側面は否定できないと思う。

石田委員 全くの異文化の、考え方が違う人たちが出会い、行き交うことで何かが起こることが躍動のきっかけになるだろう。

また、伝統文化を守り、掘り起こすことは大事なことであり、さらに伝統と革新が融合して新しい文化を生むためには、若者の演劇やミュージカルなどの新しい考え方を育てる環境が必要になると思う。

コラス委員のお話にあった規制の問題についてはおっしゃるとおりであり、屋台祭りやジャズフェスティバルなどさまざまな取組を、規制を取り払ってでもできるよう働きかけていかねばならない。

水辺については、中央区にはすばらしいテラスがいくつかある。音楽などの定期的なフェスティバルが開催される空間を作り出していくことによって、人々が出会い、交流が生まれていくのではないかと思う。

- 山本委員 日本の伝統文化の中でも、江戸には江戸の文化があると思う。躍動感、にぎわいを生む場所を江戸の和の要素で演出ができれば素晴らしいと思う。古典と現代の革新を合わせて、和のよさを表現し直していければよい。
- 水辺について、昔の川開きは、江戸の独特な文化であったと思う。江戸にルーツを持つ和の文化と、それを改めて現代に置き直したものを、まちデザイナーのような方に総合的にプロデュースしてもらえば、違った意味での日本の文化を世界に向けて魅力的に発信できるのではないか。日本の伝統文化に対する海外からの評価が今後高まっていくと考えると、根本でそれをしっかりと維持しながら、発信しているのは中央区しかないと思う。
- 金井部会長 さまざまな意見をいただいたが、資料2「躍動部会報告書（案）」、資料3「躍動部会報告概要（案）」については、原案のまま基本構想審議会に報告してもよいか。
- 中西副部会長 資料1「躍動部会報告書（修正案）」の3ページ、「発達段階に応じてICTに適切に触れながら」とあるが、広がりをもたせるために「発達段階に応じてICT“にも”適切に触れながら」としてはどうか。
- 事務局 検討させていただく。
- 金井部会長 本日いただいた意見の反映に当たっては、私と事務局に一任させていただくことでよいか。
- （異議なし）
- 金井部会長 ではそのように取扱い、第3回審議会に報告させていただく。
- これまで当部会において20年後の中央区の姿について審議を重ねてきた。その中で感じたことなどを、本日発言のなかった方にも一言ずつお願いしたい。
- 岩田委員 基本に立ち返って考えると、日本橋は、海運により地方から集まってきた産物で商売をして成り立ってきており、こうした産物が躍動の源なのだと思う。今、中央区には各県の物産館が集まってきており、日本橋の役割がリスタートしているように感じる。そういった部分も包括しながら体系づけていくことに意味があると思う。
- また、水辺については、隅田川から日本橋川にかけて、水辺からはレンガ造りや石造りの岸壁という、普段は見られない歴史的価値のある景色が見られる。こうした観点からも水辺をもう一度再認識し活性化していくことで、子どもたちも喜ぶと思う。
- 金井部会長 水辺については躍動部会で繰り返し出てきたテーマであり、単にインフラの話ではない。環境の改善も必要であり同時にさまざまな活力に繋がる重要な可能性も持っている。また、物産の中心ということに関しても、築地市場跡地の話がこれまで出ていることもあり、全体として考えていきたいと思う。
- 島田委員 日本らしさ、中央区らしさや伝統をもう一度見直していくべきとの意見を多くいただいた。教育の面では、これまで学習指導要領に基づき、全国で質の高い教育を実践しながら、戦後の日本の経済を発展させてきた。価値観が変わり、先行きが見えないこれからの時代で、躍動する中央区を担っていく子どもたちを教育の中で育てていくために、皆様の意見を踏まえ、考えをまとめて基本計画や色々な事業に生かしていきたい。また、伝統と文化を誇りに思い、さらに国際化の視野をもった子どもたちを育てていかなければいけないということを改めて感じた。
- 松岡委員 オリンピックを控え、中央区商店街連合会では、外国人の買い物習慣や日本の販売方法との違いについて勉強会を4回開いている。また、中央区は23区の中で百貨店数が最も多く、老舗店や専門店もたくさん揃っている。こうした特性を生かし、お客様が買い物をしていて楽しいと感じるお店をいかにしてつくっていくかということのを会報に載せている。
- ネットや通販が進み、商品は即座に届くという中でなぜお店に来ていただけるの

か。それは、そこでしか味わえない高い接客の技術があるお店、究極の小売店があり、単なる接客だけではなく、なぜこの商品を買ったのか、どう使えば良いのかを、買い物と同時に説明してもらえることで本当の感動が感じられるからだと思う。区内のどの商店街に行っても買い物をした感動の喜びがあるお店をたくさん作っていききたいということが、中央区商店街連合会の基本方針である。

杉原委員 日枝神社の祭りを見てきたが、多くの人でにぎわうとともに、外国人が珍しがって見ていた。やはりこのような日本の伝統は良いイベントになると思う。銀座でも「ゆかたで銀ぶら」という催しを行うが、定期的にやっていけば良い方向に行くと思う。コラス委員のお話にもあったが、観光客はたくさん来れば良いというものではない。受け入れる側の準備が不十分だとメリットも生まれてこないと思う。この点は行政が一体となって考えていかなければいけない。

金井部会長 本日委員からいただいた感想、意見については、基本構想審議会や起草委員会でまとめていきたい。これで今日の議事を終わりにしたい。最後に何かあればお願いしたい。

事務局 まち歩きについて、明石町にある郷土天文館の事業で文化財めぐりを年に2回行っている。昨年度は、水上バスからまちの歴史、風景を見るプログラムを行い好評だったため、今後もやっていきたいと思う。また、江戸時代以来の文化史に関する展示を実施するなど情報発信にも努めているところである。

金井部会長 個々に行われている事業を、基本構想ではさらに大きな絵柄の中に入れていきたいということが今回の躍動部会の報告になると思う。

(5) その他

金井部会長 議題5「その他」として全体を通して質問等をいただきたい。
(質問等なし)

3 閉会

金井部会長の閉会宣言により終了。